

「終わりの会」どうしていますか？

朝の会と同様に一日の終わり「終わりの会」もとても大切な時間です。
子どもたちは、1日の学校生活を終えて、すぐに家に帰る子どもや放課後遊びする子どもなどそれぞれです。また、今日1日のうちで先生から注意を受けた子ども、友だちとけんかしてしまった子どもなど、マイナスな気持ちになっている子どももいることでしょう。
しかし、「終わりの会」の持ち方一つで「明日も学校に来たい。このクラスで楽しく過ごしたい。」と思えるようになります。
子どもたちが前向きな気持ちになる「終わりの会」のヒントになることを紹介しましょう。



○一日のおわり、明日も学校に来たいという気持ちに

ステップ1 「子どもたちの様子をしっかりと観察しよう」

「終わりの会」では、授業が終わった解放感がどの子どもにもあることでしょう。しかし、中にはマイナスの思いを持っている子どもも少なからずいるはずですが、子どもたちの様子を「終わりの会」でもしっかりと観察しましょう。そして、元気のない子どもには必ず一言声をかけるようにしましょう。



ステップ2 「終わりの会」の司会は必ず輪番で

「終わりの会」を進めるのは日直さんの仕事です。朝の会同様、クラス全員の輪番にしましょう。人前で話すのは、得意な子どももいれば不得意な子どももいますが、繰り返し経験することで、徐々に慣れてくるものです。どのくらいの声で話せばみんなに聞こえるのかということも、経験しないとわかりません。

ステップ3 「いいことさがし」で前向きな気持ちに

「終わりの会」で子どもたちは、今日一日の困ったことなどを発表していませんか。「○○さんが、こんな困ったことをしていた。」という発表を聞くことから、前向きな気持ちにはうまれてきません。是非前向きな気持ちになるような発言が子どもたちから出てくるようにしましょう。そのためには、先生自身が1日の子どもたちの行動をしっかりと観察して、「いいこと」をしていた子どもを「終わりの会」でしっかりと褒めることです。

最初は先生からの言葉になると思いますが、そのうち子どもたちから「○○さんは、こんないいことをしていました。」という発言がでできます。「いいことさがし」は褒める方も褒められる方も幸せな気持ちになることでしょう。

ただし、ここで先生が気をつけなければならないことがあります。必ず全員のいいところを発表することです。人間誰しも、認めてほしい気持ちを持っています。自分だけ何も言われない程悲しいことはありません。



ステップ4 「終わりの会」の時間を守ろう！

「終わりの会」は必ず時間制限が必要です。放課後遊びの時間確保はもちろんですが、子どもたちそれぞれに、予定があるはずで。習い事や家族との約束などがある場合、あまりにもだらだらと「終わりの会」をしていると不満な気持ちが子どもたちや保護者から出てきます。

「いいこと探し」も1日に何人などと決めておくのがいいでしょう。係からのお知らせなどもその日に必要なことだけにしておきましょう。時間に余裕のある時に、まとめてするのもいいでしょう。



1日の終わりを明日へとつなげるために

「終わりの会」だけでなく、小学校では1日のほとんど全てが担任との関わりの中で営まれることから、学級経営が基盤になって生活や学習が進んでいきます。

子どもたち全員一人ひとりと関わるのが一番の理想ですが、クラスの人数が多いと、なかなか難しい場合があります。

しかし、子どもに対して注意したり叱ったりしたことに関しては、覚えているはずです。1日の終わりまでに、当該の子どもとしっかりと向きあって、前向きな気持ちになって、次の日に登校できるように声かけをすることはとても重要なことです。子どもだけでは不十分と感じた場合は、保護者に伝えることも必要になってきます。この場合も、伝え方が大切です。一方的に悪かったことだけを伝えるのではなく、その子のいいところや頑張っているところなどを伝えた上で必要な話をしていきます。そうすることで、保護者は、担任が自分の子どものことを考えて、必要だと思ったから連絡してくれたと理解してくれます。

